

# シドニー工科大学 留学に関するQ&A

2012 年派遣生 浅井真裕子

以下の三つの質問についてお答えします。

- 1 留学に行こうと決めたきっかけはどんなことでしたか？
- 2 勉強面、生活面で大変だったことはどんなことですか？
- 3 授業はどんな感じですか？



## 1 留学に行こうと決めたきっかけはどんなことでしたか？

まず、私が留学を意識したきっかけは大学二年時に韓国への夏期短期留学に参加したことでした。私は副専攻で韓国語を履修していて、韓国語と韓国の文化を勉強するためにそのプログラムに参加したのですが、そのプログラムには他の国からも多くの学生が参加しており、彼らと意思疎通するためには韓国語ではなく英語を使用しなければいけませんでした。

それまで英語とは無縁の生活だったので私はほとんど彼らと会話することができず、そのことが私にとってとてももどかしく感じられ、また他の国の学生の英語力の高さに圧倒されました。私は他の日本人の学生と日本語が堪能な韓国人の学生とともに行動しましたが、周囲の人たちは盛んに交流を育んでいて、私たちのグループだけ孤立していました。その時の情景は世界を縮図にしたようで、日本だけ他の国から取り残されているように感じました。その時に私はコミュニケーションのツールとしての英語の大切さを身にしみて感じました。

その後、日本に帰ってから社会人の方とお話する機会が度々あり、社会に出てからもやはり英語力は大切だと再認識しました。日本から一生出ないで暮らすなら英語は不必要かもしれませんが、グローバル化が確実に進んでいる中で英語の一つや二つできなければ不自由を感じる場面に必ず遭遇するであろうし、英語は様々な可能性を広げる力を持っていると思います。そしてこれからもずっと英語ができないことをコンプレックスにして生きて行くのは私にとって苦痛であり、向き合わなければならないことから自分が逃げているように感じました。

私が本格的に留学を意識し出した時、私はすでに大学三年で就職活動も控えており、留学するには遅いと思われる時期でした。当時は将来に対する不安や悩みをたくさん抱えており、また私は公務員になることも一つの将来の選択肢として考えていたので留学に躊躇する時もありました。しかしキャリアセンターのアドバイザーの方や国際課の留学担当の方に相談をし、留学の決断に背中を押していただきました。今は留学を選択して本当に良かったと思っています。

もし留学に迷いがあるのであれば、一度大学のアドバイザーの方などに相談をお願いしてみてください。私がもし他の人に相談しなかったらきっと自己解決して留学は踏み留まっていたと思います。

## 2 勉強面、生活面で大変だったことはどんなことですか？

私は Australia Language and Culture Course という英語力がまだ現地の大学の授業の水準に達していない学生のためのコースで一学期勉強したのですが、それでもやはり英語でエッセイを書いたり、授業で発言することはかなり大変でした。先生の話は割りとすぐに理解できるようになりました。私は4つの授業をとっていたのですが、一つの授業で課題を3～4つ一学期の中で出されるので、何回も課題提出の時期が来てそのたびに英語のエッセイやプレゼンテーションの準備に苦しめられました。私はもともと日本語でも論文を書くのが遅いのですが、それが慣れない英語でとなるとその3～4倍の時間を要しました。本当に早め早めに課題を進めなければ地獄を見るので用心して下さい。

また、こちらでは教授が一人でしゃべって終わりの授業はありません。必ず学生の発言が求められ、それによって授業も進んでいきます。しかし、日本人はもともと授業で発言する習慣はなく、英語力も他の国の学生に比べて極めて低いので授業中に発言することは最初はかなり勇気がいると思います。私も最初、他の国の学生の発言の多さと彼らの積極さに最初はたじろいで何も発言できませんでしたが、少しずつ授業中の発言を増やしていくようにしました。

そして、自分の国についての知識を豊富に持つておくことは授業でも日常生活でも大事だと思いました。留学生としての使命だと思いますが、自分の国について話さなければならないシチュエーションは授業でも日常生活でも度々訪れます。私は他の国の学生が自身の国の社会問題や政治、歴史についてとても詳しく話し、それに対する自分の意見をしっかり持っていることに驚きました。私は自分の専門分野である社会学の話であれば割りと話すことができるのですが、日本史や政治、スポーツなどの話題をふられるとお手上げで、さらに日本人好きな外国人はかなりの確率でアニメ・漫画好きなので、そういったことに疎い私はせっかく話題をふってくれたのに盛り上げることができず、気まずい思いをしました。日本の時事問題や歴史について知っておくことはもちろんですが、アニメ・漫画についても多少なりの予備知識があるといいと感じました。

それから、生活面において大変なことは、ルームシェアをすることが一番大変だと思います。オーストラリアは地価が非常に高く、一人部屋に住むことはかなり難しいと思います。おそらく留学する方アパートか寮かの選択になると思いますが、家賃はけっこう高いです。私は大学の寮の男女混合の4人シェアで、月に\$912、日本円にするとその時のレートにもよりますが7万円強くらいです。

そして問題なのが、ルームメイトとの相性です。私は比較的気の合うルームメイトに恵まれたので大丈夫だったのですが、他の日本人の友達にはルームメイトと相性が合わなかったり、共同生活する上でトラブルがあったりした人がいて、そういった人たちは半期で部屋を変えていました。私のルームメイトは三人とも落ち着いた性格なので私は暮らしやすいのですが、ルームメイトが友達を大勢家に呼んできたりすると、騒音に悩まされるといった問題はあります。あとは時々使った後のお皿がシンクに山積みになっていることがあるとはあ～またか...と思います。深刻な問題は今のところありません。ルームシェアには問題がつきものですが、ルームシェアすることも一つの経験になるし、また私は素敵なルームメイトとの出会いに感謝しています。

### 3 授業はどんな感じですか？

授業での大変さは上記で述べたので、それ以外のことをお伝えしたいと思います。私の **Australian Language and Culture Course** は日本人 9 人、中国人 2 人、スペイン人 2 人、イタリア人 1 人で構成されている小さなコースです。4 つの授業のうち、3 つはいつも同じメンバーなので、クラスメイトとはすぐに仲良くなれました。授業はディスカッションとプレゼンテーションがたくさんあったのが印象的です。授業中はいつでも質問 OK で、先生も生徒が会話しながら授業が進んでいくようでした。いつ質問しようかタイミングをうかがっていると大体他の人に先に言われるか、もう話は次に行ってしまうので、ある意味で空気を読まずにばんばん発言する人の方がこちらではうまくやっているといます。また、こちらでは参考文献と引用の書き方を耳にたこができるほど非常に厳しく注意されます。そしてエッセイの論理的な書き方も何度も授業で確認され、論文の形式は日本よりとても厳しく決められていると感じました。

また、大学の授業は二時間単位で構成されています。私のコースの授業は一つにつき前半後半二時間ずつ、計四時間でした。日本の 90 分の授業でさえ長いと感じていた私は最初二時間も連続でやっていけるのか不安でしたが、こちらの授業は学生参加型なので先生の話ばかりでなく、学生も話すし、自分も何か話さなきゃ、という気合で臨んでいるので二時間連続でも苦痛はありませんでした。また、先生は（オージーだからでしょうか）みんな明るい性格で、授業中にジョークなどを言ったりするので楽しみながら授業に参加できました。

最後に、慣れない外国生活は最初大変かもしれませんが、絶対に周りの人が助けてくれます。留学の夢が叶いますように！

※左二つが大学の中で、右がセント・メリーズ教会です。

